

かねざわ 第48号

平成26(2014)年2月

- ・「オリンピックの思い出」特集 (P29)
- ・「50号記念特集」原稿募集 (P33)



次

運営委員会からのお知らせ

- 2 分科会代表との連絡会報告
- 4 「フォーラム KANAZAWA」のご案内
- 5 映画「遠き落日」鑑賞会の参加募集
- 5 継続会員の状況と新規会員募集
- 6 “わ”の会蔵書・資料

学習会

学習会の概要とアンケート結果

- 7 第6回「追浜・夏島地区を巡る」
- 9 第7回「明治・大正の金沢の小学校」

分科会からの便り

- 12 「懐かしの映画」鑑賞録 No. 13 佐藤 晃
- 15 「浮雲俳句会」抄録 No. 24 北野 清市

- 19 神奈川県西部の寺社を訪ねる 飯富 禧子
- 22 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 NO. 3 小俣 悦男
- 25 「古文書を読む会」からのたより(2) 真田 雅行

歴史研究

- 27 金沢の仏教寺院(2) 「寺社を巡る会」熊谷 哲

会員からの寄稿-オリンピックの思い出

- 29 金メダル第1号は「小さな巨人」 中村 徳次
- 30 50年前の聖火リレーの写真 伊達 一雄
- 31 '64東京オリンピック後日談
あるアスリートの死 渡邊 紀一

編集委員会からのお知らせ

- 33 会報50号記念原稿募集!

行事予定

- 34 2014年3月~5月



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル: yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

運営委員会からのお知らせ

分科会代表との連絡会報告

2013年度の分科会代表と運営委員会との連絡会が年始の2014年1月11日(土)に開催されました。通算で9回目に当たります。出席者は、6分科会の代表(「寺社を巡る会」松本代表、「古文書を読む会」真田代表、「ふれあいの道歩こう会」小俣代表、「懐かしの映画を観る会」佐藤代表、「浮雲俳句会」北野代表、「パソコンを使いこなす会」林代表)、7人の運営委員(今井代表、金間副代表、沓掛・内田・金久保・高橋・大門委員(他の3人の運営委員は都合で欠席))、小俣顧問(「ふれあいの道歩こう会」代表兼務)でした。

1. 今井代表挨拶

“わ”の会の2013年度行事はほぼ終了した。特別な行事として、“わ”の会創設15周年記念行事(記念講座、記念パーティー、事典重版)があったが、いずれも成功裏に終わることができた。これは分科会があつてのことであると感謝します。

2. 分科会活動報告

2.1 定例活動の状況

2013年度の活動状況と2014年度活動予定を各分科会代表が報告。

(1)「寺社を巡る会」 松本代表

- ・年度の設定は6月始まり。2013年度は金沢区内を中心とした寺社巡り(8回:分科会のメンバーで構成した各グループが分担して案内)、座学(2回)、鎌倉地区巡り(2回)、伊豆山神社等を廻るバス旅行(1回)を実施。
- ・登録メンバーは45人であるが、高齢化のためか7~8人の休会者が出ている。
- ・2014年度は6月から、三浦三十三観音巡りを12回実施。案内は横須賀観光ボランティア協会に依頼。

(2)「古文書を読む会」真田代表

- ・メンバーは16人。経験者と初心者が半々。

- ・年度の設定は1月~12月。毎月の第2木曜日を第一学習日として「地元金沢に残る旧家の古文書」を、第4木曜日を第二学習日とし「その他の古文書」を読んだ。また、初心者を対象に基礎講座を開催。
- ・2014年度も同じパターンで進める。
- ・第一学習日の金沢に残る古文書は一巡しつつあり、2~3年後は金沢以外に求めざるを得なくなる。
- ・この10年間で読んだ古文書の中から面白そうなものを選んで概要を11月発行の会報47号から連載することにした。
- ・古文書に関する「野外学習」を検討。

(3)「ふれあいの道歩こう会」小俣代表

- ・メンバーは26人。
- ・昨年1月に「関東ふれあいの道」全144コースの踏破を実現。「達成感」と「仲間意識」が強まった。
- ・年度の設定は1月~12月。2013年2月からは月1回の独自コース歩きを計画。しかし、天候の関係で4回が中止になった。これには高齢化による安全を考慮したの部分もある。
- ・2014年度も月1回の独自コース歩きである。5月は発足以来の通算100回目の歩きとなるので、記念行事を計画する。

(4)「懐かしの映画を観る会」佐藤代表

- ・総勢86名。出席率60~70%。
- ・2回/月の鑑賞会。2本立ての時もある。
- ・4月からの新年度では、会員アンケートで12本、代表選出で12本、既観賞映画からの会員アンケートで4本を選んで観賞する。

(5)「浮雲俳句会」北野代表

- ・年度の設定は6月始まり。2013年5月までは「山」、7月からは「海」をテーマに毎月の句会を実施。6月と9月は金沢区民俳句大会に参加。
- ・2013年度の2回の金沢区民俳句大会では、

いずれも当会メンバーの句が天賞に選ばれた。力を付けてきたことは喜ばしい。

- ・2014年6月までは引続き海、7月からは河川をテーマにする。

(6)「パソコンを使いこなす会」林代表

- ・メンバーは19名。
- ・2013年度はWindows・Word・Excelの技術向上、日本語入力辞書の使い方、音楽CDの取り込みなどの講座を実施。
- ・2014年度の実施内容については会員のアンケートが終了し、集計中。
- ・分科会会員、“わ”の会会員からパソコンを使う上での困りごとを事前に集めて、皆で解決策を考える試みを開始したい。会報、ホームページ、“わ”の会通信での協力をお願いしたい。

2. 2 10周年記念事業

(1)「ふれあいの道歩こう会」小俣代表

- ・3月に“わ”の会全会員に「どういう形で楽しみを伝えられるかの思い」で記録集第3集を作った。
- ・4月の記念ハイキングは41人の参加予定であったが、雨天で中止。ハイキング後に予定の記念パーティーのみを実施。

(2)「懐かしの映画を観る会」佐藤代表

- ・準備会を立ち上げる予定。
- ・現在までの「鑑賞映画の解説」のCD化、外国映画の解説講演、「美空ひばり」特集などが考えられる。

(3)「浮雲俳句会」北野代表

- ・2016年の10周年に向けて、冊子「十年の歩み」案を作成した。編集委員会を今年より始めたい。

(4)「パソコンを使いこなす会」林代表

- ・まだ先であり、計画していない。

3. “わ”の会の運営に関する事項

(1) 来年度の運営体制について

- ・運営委員の1人が静養中、5人が退任で、来年度は実質5人の委員体制となり弱体化は否めない。
- ・そのために役割分担が定まらない部分がある。
- ・「入会2年目の会員には運営委員を積極的

をお願いする」等、何らかのルール化が必要。

- ・分科会の皆さんにも協力を願いたい。

(2) 今年度および来年度学習会について

- ・今年度の学習会の出席率は大変に良好。
- ・特に、8月の“わ”の会創設15周年記念講座は参加者が多かった。
- ・来年度の特徴は、金沢北条氏がテーマで新顔の東洋大講師の細川氏を2回連続で迎える。開催時間も午後とする。
- ・もうひとつの特徴は、第1回の学習会に元代表の高橋さん、第7回学習会に「古文書を読む会」代表の真田さんを迎える。

(3) “わ”の会創設15周年記念事業報告

① 記念講演会

- ・大橋新太郎生誕150年に因んだ内容で、区民にも公開とし、県立金沢文庫と金沢区役所の協力を得た。
- ・文庫解説ボランティアでもある酒井氏を講師に「大橋新太郎と金沢…生誕150年記念」と題して、県立金沢文庫大会議室で開催。また、文庫で開催中の展示見学に先立って、文庫学芸員による説明を受けた。
- ・事前の案内を区の広報「かなざわ」に掲載。お陰さまで、参加人数は118人(内、会員75人)で会場は満席。
- ・新太郎の孫娘、新太郎の弟の孫息子の参加・ショートスピーチもあった。

② 記念パーティー

- ・記念講演会終了後、会場を横浜市立大学食堂に移して開催。
- ・酒井氏、区長、区地域振興課員の参加もあり、総勢38人の盛会であった。

③ 「新版 かねざわの歴史事典」重版

- ・17人の編集委員で1月～9月にかけて議論を行い、要修正箇所約60を摘出。
- ・原稿を修正し、9月末に300冊を印刷。
- ・現在までに、編集委員および関係者・関係個所への無料配布50冊、会員への直販25冊、書店などでの委託販売71冊で、配布と販売の合計は146冊。
- ・現在の販売委託先での在庫の合計は37冊。
- ・手元在庫は121冊。今後2年ぐらいは

在庫が残るであろう。

(4) “わ”の会創設 20 周年記念の準備

- ・「事典」の増補、改訂が考えられる。1月25日にフリートーキング方式で検討を開始。
- ・その他に、分科会の新設などもある。

(5) 会報について

- ・47号(11月発行)から「古文書を読む会」も定期的な寄稿を頂くことになり、分科会の機関紙的な役割が出来つつある。さらなる活用を期待します。
- ・本年8月で50号になり、記念原稿を募集予定。
- ・歴史研究、紀行、趣味の話など、会員からの寄稿を増やしたい。
- ・会報がどの程度読まれているのかが気になる。

(6) ホームページ、“わ”の会通信について

- ・ホームページに分科会の年間予定、実施記録を掲載。
- ・実施記録が新たに掲載されるなど、ホームページに変化があると、それを知らせる“わ”の会通信を発行。
- ・“わ”の会通信の発行頻度は2.5回/月、ホームページのアクセス数は390回/月。

- ・会報と同様に、分科会のホームページでもある。今以上に分科会活動に役立つ使い方を一緒に考えていただきたい。
- ・掲載記事の誤りチェック(校正)体制の整備が課題。

(7) フォーラム KANAZAWA について

- ・今年は3月8日(土)に開催
- ・“わ”の会の展示パネルの構成は昨年と同じとする。
- ・昨年まではパネルの前に長机が置かれたが、本年は卓球台となる。ものを置くには面積が大きくなるが、来訪者との対面が難しくなる、

(8) 継続・新規会員について

- ・継続会員は114人。
- ・会員の最大数は125人とし、新規募集は10人。
- ・2月1日から募集チラシ配布し、3月8日のフォーラム会場での募集で締切りとする。

4. ご要望・ご意見

- ・女性会員が減っているのは、男社会のイメージがあるのではないか。
- ・運営委員のなり手を増やすには、運営委員会も世話人会とやわらかく表現すべき。

「フォーラム KANAZAWA」のご案内

「フォーラム KANAZAWA」は金沢区役所に登録している街の先生と団体が活動状況を金沢区民に紹介し、活動への参加を呼び掛けるものです。同時に街の先生・団体と区民との交流、街の先生・団体同士の交流をはかることを目的にしています。

毎年3月に開催され、すでに10年以上続いています。区役所に登録の街の先生は約160人、団体は約270です。毎回参加希望の調査があります。そのために、参加者の顔ぶれに多少の変動はありますが、常連が多いです。数とし

ては毎年約60人・団体です。

“わ”の会は第1回から参加を続けており、当会の活動状況をパネル展示の形で紹介し、来場の区民との交流を図り、新規会員の募集を行ってきました。また、当日のパネル展示での参加はもちろん、フォーラム全体の実行委員の一員として、全体の計画・準備・当日の運営にも参加し、街の先生や他の団体との交流を深めてきました。今年も従来と同様の展示で参加するとともに、実行委員としての活動を行っています。

昨年度は、晴天の日曜日の開催で、全体で550人の来場があり、“わ”の会の会員の姿も多数見受けられました。本年も、多くの会員に

ご来場を頂き、にぎわして頂きたくお願い申し上げます。

日 時：2014年3月8日(土) 10時～15時30分
場 所：能見台地区センター
内 容：展示、実演、体験
参加費：無料（一部実費負担あり）

*詳細は「フォーラム KANAZAWA」のパンフレットまたは区役所のホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/chishin/shogaku/forum2014.html>
をご覧ください。

映画「遠き落日」鑑賞会の参加募集

5月に開催の今年度最初の学習会では、「野口英世と横浜金沢、そして私」と題して当会元代表の高橋好一氏が講演されます。

これに先立って、「懐かしの映画を観る会」では、野口英世を描いた映画「遠き落日 野口英世とその母の愛の物語り」の鑑賞を行い

ます。

については、毎回の鑑賞会の状況から、席に若干の余裕が出ると思われまので、下記の要領で、「懐かしの映画を観る会」のメンバー以外の“わ”の会会員の参加募集を行います。

日 時：2014年4月28日(月) 12:30～15:00
場 所：金沢地区センター 大会議室
鑑賞作品：遠き落日 野口英世とその母の壮絶な愛の物語り
監督：神山征二郎 脚本：新藤兼人 原作：渡辺淳一
出演：三田佳子、三上博史、牧瀬理恵、河原崎長一郎、山城新伍、田村高広、仲代達矢

参加費：無料

募集人数：10人（「懐かしの映画を観る会」メンバー以外の“わ”の会会員）
応募多数の場合は抽選

応募先：電子メール yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

電 話 今井（785-1639）

締 切 り：2月22日(土)

継続会員の状況と新規会員募集

継続：114名、退会：7名、継続率：94.2%

昨年11月末に継続会員募集を締め切りました。その結果、2014年度への継続の手続をされた会

員は114名、継続の手続をされずに退会となる会員は7名で、継続率は94.2%となりました。

新規会員募集 募集期間：2月1日～3月8日、募集人数：10名程度

2014年度の新規会員募集は、2月1日から区民活動センターと各地区センターに募集チラシを配置し、ホームページにも掲載することで開始しました。また、3月8日の「フォーラム KANAZAWA2014」会場でも募集を行い、この日を持って募集の締切りとします。

募集人数は約10名とします。学習会で使用する

る地区センターなどの会場の定員の都合で、会員数は125名を上限とせざるを得ないためです。

平均年齢の高まりと女性が少ないことから、若い方と女性の応募を期待しております。お近くにそのような方がおられましたら、応募をお薦め下さい。

“わ”の会蔵書・資料

会報45号(2013/5)掲載分につき、その後に入手した“わ”の会蔵書・資料の一覧です。

今回、“わ”の会としては初めて「地元・金沢の歴史」に関する書籍を購入しました。会報やホームページ作成の参考となるものは購入してきましたが、歴史に関する蔵書・資料は全て寄贈によるものでした。No.77の

慶珊寺佐伯住職著「武州富岡史話」がその書籍です。

“わ”の会蔵書・資料の貸出し希望の会員は電話(045-775-1612 金間)、または電子メール(yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com)でお知らせ下さい。

No	著者 編集者	書料 資料名	発行日	発行元	入手日 (入手法)
75	横浜郷土史団体連絡協議会	横浜郷土史団体連絡協議会 会報 Vol.7	2013.4.27	横浜郷土史団体 連絡協議会	2013.4 (寄贈:発行元)
76	横浜開港資料館	横浜開港資料館紀要 第31号	2013.3.31	横浜開港資料館	2013.7 (寄贈:発行元)
77	佐伯隆定	武州富岡史話	2013.11	真言宗御室派 慶珊寺	2013.12.7 (購入)

慶珊寺佐伯住職著「武州富岡史話」について

新聞折込で各戸に配付される「タウンニュース」No.301(2013.12.12発行)の「人物風土記」欄で、この本と住職が紹介されましたので、ご存知の会員も多いと思います。

内容は「富岡の歴史」で、本を開いてみますと、思わず読み進めてしまいます。面白いし、史料としても優れています。また、資料提供などの協力者として、元代表の岡本茂男氏、会報編集員の伊達一雄氏の名前も出てきます。

当会は慶珊寺を訪問するなどお寺と佐伯住

職にはいろいろとお世話になってきました。また、本年9月の学習会では「慶珊寺と富岡の歴史」と題して住職に講演を頂くことになっているなど、これからも何かと関係が続きます。

9月の講演では、この本の内容が紹介されると思いますが、内容豊富で一部の紹介にとどまることが必定です。一読の上、お手元に保存されることをお薦めします。なお、本の入手は区内のいくつかの書店で可能です。

学習会の概要とアンケート結果

第6回 「追浜・夏島地区を巡る」

開催日：2013年10月25日（金）

集 合：京急追浜駅改札口

ガイド：探訪実行委員会

コース：追浜駅⇒六地藏傍示堂⇒雷神社⇒築島⇒良心寺⇒追浜駅、貸切バス乗車⇒貝山緑地前下車⇒海軍航空発祥の地記念碑⇒烏帽子巖の碑⇒明治憲法起草地記念碑⇒夏島貝塚⇒海洋研究開発機構（研究者講演・見学、熊谷氏講演）、貸切バス乗車⇒追浜駅

出 席：51名（ビジター1名） 会員の出席率 41.3%

概要

去年は学習会テーマに沿った三浦一族ゆかりの地めぐりを実施しました。今年は趣を変えて、学習会テーマに捉われず、いにしへのゆかりの地訪問と未来への希望を宿しています場所への訪問となりました。

台風26号が通り過ぎましたので、天候については楽観視していましたが、27号、28号とアベック台風の来襲で予断を許さない状況になってしまいました。実行委員会としては小雨決行では無く、雨天決行、交通が止まらない限り、実施の気持ちで天気予報に一喜一憂しながら当日の朝を迎えました。空模様は怪しい気配でしたが、堅い決意が通じたのか、雨ではなく曇り、実行のときです。

追浜駅9時45分集合、3班編成で最終班10時出発を予定していましたが、皆様集りが良く、第1班は会員16名、実行委員3名計19名で9時25分出発、第2班は会員18名、実行委員2名計20名で9時45分出発、第3班は京急追浜着10時過ぎの電車を待ち、会員7名、実行委員5名計12名で10時5分出発、総勢51名の探訪スタートです。途中雨がパラッキ、傘を差すシーンが有りましたが、幸い、あまり濡れる事なく午前の部を歩き通す事が出来ました。

午前の第1ステップは六地藏傍示堂（輪廻転生後の幸せを願う六地藏信仰、相模・武蔵の国境の無病息災の願い地）、雷神社（降雨を祈る雨請い／河伯の儀が起源、ご神木の銀杏は樹齢500年を越す大木で垂れ下がる乳頭が安産や子育ての信仰の対象となっています）、築島（ご神木の柏槇が立っています。昔この辺りは入江で周りは塩田でした）、良心寺（朝倉能登守の室の墓/横須賀市指定史跡、鷹取山の石切の



雷神社

初代棟梁の墓、豊臣秀吉禁制のいわれ）とガイドの説明を受けながら訪ね歩き、追浜駅に戻り貸切バス乗車、貝山緑地前で下車、第2ステップとして海軍航空発祥の地（明治45年11月水上機の初飛行に成功）、烏帽子巖の碑（野島夕照の絵に大きく描かれていましたが今は有

りません)、明治憲法起草地記念碑(碑の基石は明治憲法76条を示す76個の御影石からなり縦横の寸法は憲法発布日を表しています)、夏島貝塚(約9,500年前の遺跡で、土器編年の確立に貢献)と巡りました。ここまで探訪実行委員のガイドで各ポイントを廻って来ましたが、皆様満足頂けましたでしょうか。

午後の予定地、海洋研究開発機構には12時35分到着、会議室で昼食を取って頂きましたが、時間が短く、やや落ち着かないシチュエーションになってしまい、申し訳ない事でした。午後1時から「しんかい6500」の元パイロ



海洋科学技術研究開発機構
「しんかい6500」コックピット実物大模型
-3人しか入れませんでした-

アンケート結果

①講演内容評価

大変良かった:16 良かった:4 普通:0 つまらなかった:0

②コメント

- ・海洋研究開発機構の見学ができて良かった(9)
- ・深海の様子の説明が良かった(2)
- ・ビデオでの説明を先にして、実際に潜ったときの体験談の方が良かったのでは(1)
- ・熊谷氏の話が良かった(5)
- ・探訪ガイドの方が勉強されて楽しく聞くことができた(1)
- ・散策と講義の組み合わせなど企画が良かった(4)
- ・良心寺の石工の墓や烏帽子岩の碑など見逃していたものが見られた(1)
- ・戦中と戦後の最先端を学べた(1)
- ・海軍時代の横須賀をもうすこし解かりたい(1)
- ・史蹟の見学が良かった(2)
- ・歩行時間と距離が長く体力的に限界、キツカッタ(1)

ット小椋氏のパワーポイントを使った約1時間の講演、その後見学を約1時間、もう少し見学時間が有ったらと言う感じもしましたが、皆様深海の世界を満喫して頂けたのではと考えています。

その後30分、かねざわの歴史事典編纂委員長熊谷哲氏の「追浜と海軍」についての講演。午前訪れましたところとの関係もあり、興味深く拝聴出来たのではと思います。

天候予測が芳しくない中、51名の方の参加を頂いた事、またかなりの距離(約12,000歩、7~8Km)を歩いて頂いた事、探訪実行委員会として改めて感謝申し上げます。熊谷様には探訪最後の登場となり、お疲れの所、熱弁奮って頂き有難う御座いました。

今後の探訪については、アンケート結果を踏まえて、コース、内容等検討して行きたいと考えます。今後共宜しくお願いします。最後に探訪実行委員の皆様下見、再下見、本番とお疲れ様でした。

(探訪実行委員長:内田孝知記)

第7回「明治・大正の金沢の小学校」

開催日 : 2013年11月9日(土)

場所 : 能見台地区センター 多目的室

講師 : 横浜開港資料館 副館長 西川 武臣 氏

出席 : 96名(ビジター なし) **会員出席率** 79.3%

概要

1 寺子屋教育

寺子屋は、江戸時代の庶民の子弟に読み書き、計算、或いは実務的な知識・技術を教えた民間の教育施設である。「寺子屋」の名称は主として京都、大阪などで用いられ、江戸では「手習指南所」、「手跡指南」などと呼ばれたものが多い。

その起源は、中世寺院での教育に始まるとされているが、江戸中期以降農漁村を含めて全国的に広がり、幕末には15,000を超える数に達していた。こうした民間教育施設の展開が、当時の世界的な識字率の高さを支えていたのである。

明治24年(1883)に明治政府が調査した全国調査資料である「日本教育史資料」によれば、金沢区(当時の久良岐郡)には15軒の寺子屋が記録されている。それによると、生徒数は最も多いところで男女合わせて180人、最少では25人であり、15カ所合計の総数は男子788人(75パーセント)、女子258人(25パーセント)となっている。教師は各施設1人で、全て男であった。

なお、寺子屋の教師の身分は、全国各地のそれぞれの地域事情を反映してその構成率は様々であったが、武士、僧、医者、神官などの知識人のほか、農、商などの平民もあった。

2 公立学校制度の導入

明治2年(1869)、政府は国家近代化推進の基本政策として、学校教育の公立化を図るため「諸府県施政順序」の中で、「小学校を設けること」を定めた。

また、明治5年には「学制」が敷かれ、これに伴う太政官布告第210号により、学事奨励に関する新しい教育理念、教育政策が示されたが、その後明治19年(1878)には6才から12才までを義務教育とするなどにより国民皆教育の方針が確立された。

こうした急激な教育近代化施策を実現するには、その当時学校施設、教育者の確保が不十分であったため、従来の寺子屋をそのまま引き継いだり、寺社、廃屋などを利用して急場を凌いだ。また、教師の確保には、神奈川県は小学校教員養成所として、明治7年1月始春学舎(同年9月師範学校と改称)を設立してこれに当たったが、正式教師不足は解消されず、補助教員として試験制度による「授業生」などの採用に頼るほかはなかった。

横浜では、明治6年から逐次小学校が設立された。金沢区内には6校誕生したが、富岡村の富岡学舎(現富岡小学校)、洲崎村の知足学舎(金沢小学校)、三分村の三分学舎(六浦小学校)及び釜利谷村の赤井学舎(釜利谷小学校)などは、120年以上の長い歴史を持つ

小学校として現存している。

こうした公立学校制度の導入のもとで、就学率はどのような状況であったか。

明治14年(1874)当時の町屋村・谷津村で調査報告された資料によれば、就学対象者35人(男23人、女12人)のうち就学者は男14人、女1人で男女合わせて15人にとどまっている。就学率は全体で61パーセント(男61・女8)であった。

3 大正時代の学校行事の具体例

大正時代に入ると、学校教育現場にもある程度の落ち着きがみられる。

大正2年の釜利谷小学校学事報によれば、就学状況は学令に達した児童37名(男18人、女19人)全員が就学している。近代国家を発展させるための学校教育充実を図るためには、就学率の向上は欠かせない要件であり、学校でも父母の授業参観の奨励、教師の家庭訪問の実施或いは運動会を全村挙げての触れあいの場と位置づけするなどの努力が傾注されている。

一方、修学旅行は我が国では明治初期から始められたようであるが、横浜でも大正時代には実施されている。当時の修学旅行は、学校現場を離れた場所に於けるまさに“修学”の

ための活動であり、幾つかの学校の生徒が選ばれて参加する合同実習であった。大正7年の「鎌倉郡教育会長報告書」という資料により、現在のそれとは隔世の感のある修学旅行の具体例をみてみよう。

先ず、参加者は郡内各小学校高等科第2学年の生徒の中から選ばれた身体壮健、学力優等、品行方正の男子のみ106名であり、更にその引率者は「参加児童の進むべき方向を誤らざるよう指導する」ことの出来る人物を充てるとされている。

行程は、酷暑の7月30日に藤沢を出発し、御殿場を経て富士登山、山中湖、大月、上野原、串川、厚木を一周して藤沢帰着8月6日という7泊8日の強行日程である。しかも、一部の鉄道利用を除き、富士登山を含め行程の大半は徒歩である上に、連日、課業という現地視察や講習会が組み込まれ、文字通りの実地修学の日々となっており、当時の13・4才の少年たちの心身両面における強靭さを思わずにはいられない。

近代日本の富国強兵策は、このようにして成ったものと言えるのではあるまいか。

(田中 記)

アンケート

①講演内容評価

大変良かった：36 良かった：3 普通：1 つまらなかった：0

②コメント

- ・江戸後期から明治・大正の教育にかかわる状況に興味を覚えた(7)
- ・残された文書を基にわかりやすい話だった(7)
- ・講義の方法が完璧。分かり易くユーモアもあり話に引き込まれた(9)
- ・年に一度は講演をお願いしたい(2)

- ・大正期の修学旅行の行程と課業がすごいし、面白い (2)
- ・深い知識と経験に裏付けられた名講演 (1)
- ・布川悦五郎日記は更に深めたい (1)
- ・今までで一番良かった (1)
- ・日本が近代国家に変わっていく過程が垣間見えた。若者をどう育てるか、現代と隔世の感あり (1)
- ・身近な話を資料を基に聞いて参考になった (3)
- ・日本の教育レベルの高さを再認識した (2)
- ・資料に個人の日記を使ったのが良かった。布川悦五郎村長時代前の話が聞けた (1)
- ・現在の教師の苦勞もしのばれる (1)
- ・極めて希れなテーマで非常に興味深く聞いた (2)
- ・明治の青年、教師の向学心の高さ、気概を知らされた (1)
- ・寺小屋教育が行われていたこと、女子の就学が少なかったことが聞いて大変良かった (1)
- ・現在の学校との比較ができた (1)
- ・脇道の話が参考になった (1)
- ・全国や県内教育との比較を入れてほしかった (1)
- ・小学校は当初から6年制だったのか、学制とその考え方などベースになる話を聞きたかった (1)



西川 武臣 氏



「懐かしの映画」鑑賞録 No.13

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 25 年度第 15 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013. 11. 11〉

地獄の黙示録 *Apocalypse Now*

製作：1979 年 アメリカ

上映時間：153 分

監督：フランシス・フォード・コッポラ

原作：ジョセフ・コンラッド『闇の奥』

脚本：ジョン・ミアス、フランシス・フォード・コッポラ

主演：マーロン・ブランド、マーティン・シーン、ロバート・デュバル

その他：アカデミー撮影賞、音響賞受賞

(あらすじ)

ベトナム戦争後期、1969 年頃、サイゴンのホテルで虚脱状態になっているウイラード大尉（マーティン・シーン）は司令部に呼び出され、カーツ大佐（マーロン・ブランド）を殺すようにとの密命を下される。カーツ大佐はウェスト・ポイント出身のエリート将校で、数々の武勲をたてながら突然グリーン・ベレーを志願してジャングルに入り、現地民を組織して独立王国を作り、軍との連絡をいっさい絶っているという。指令を受けたウイラードはシェフ、ランスら 4 人の部下を連れ、海軍の河川哨戒艇に乗り、ナング河をさかのぼりカンボジアのジャ

ングルに向かう。途中、彼らは、サーフィンをしたいがために敵を攻撃するキルゴー中佐（ロバート・デュバル）の掃討作戦に参加したり、ジャングルの中に突如登場する“ラスヴェガス”で踊るプレイボーイ・ガールとそれに熱狂するアメリカ兵を見たりする。指揮官のいない最前線でドラッグで神経を麻痺させながら戦っている兵士の姿も目撃する。ウイラードたちは更に奥地を進み、遂にアンコール・ワットを思わせる建物の中でカーツ大佐に出会った…。

(解説)

この映画はイギリスの作家、ジョセフ・コンラッドの『闇の奥』をもとに、フランシス・フオード・ Coppola は舞台をベトナムのジャングルに移し、大義なきベトナム戦争の狂気を描こうとした。1960年から約15年間続いたベトナム戦争はアメリカ兵の戦死者約5万7千人、負傷者約75万人、精神に異常をきたした者約14万人とアメリカに深い傷跡を残した。監督の Coppola は『この映画はベトナム戦争そのもの、観客に戦争をリアルに体験してもらおう』として約5年の歳月と、3千万ドルの巨額の費用をかけて完成させた。公開時から、「ハリウッ

ドの最高傑作か」「最大の愚挙か」と賛否両論が渦巻き、評価する側は、「大義なき戦争の暴力と狂気がよく表されている』とし、否定する側は「前半は満点だが、後半は0点」と手厳しい評価をくだしている。しかし、現在ではアメリカ映画史上重要な位置を占める作品として高く評価され、2007年にアメリカ映画協会が選んだ映画ベスト100の30位にランクされている。79年度のカヌ国際映画祭では作品賞を受賞し、80年度アカデミー賞では撮影賞、音響賞を得ている。

平成25年度第16回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013.11.25〉

華麗なる一族

製作：1974年（昭和49年） 東宝 上映時間：211分

原作：山崎豊子

監督：山本薩夫

出演：佐分利信、月丘夢路、仲代達矢、山本陽子、目黒祐樹、中山麻里

酒井和歌子、田宮二郎、香川京子、京マチ子、北大路欣也、小沢栄太郎

西村晃、加藤嘉、二谷英明

(あらすじ)

志摩半島の英虞湾を望む志摩観光ホテルで、毎年、年末から新年にかけて4日間をこのホテルで過ごすのが、阪神銀行頭取の万俵大介(佐分利信)とその家族である。集うのは大介と妻寧子(月丘夢路)、長男鉄平(仲代達矢)と妻早苗(山本陽子)、次男銀平(目黒祐樹)、長女一子(香川京子)と夫美馬中(田宮二郎)に二女二子(酒井和歌子)と家庭教師兼執事の高巢相子(京マチ子)で、この会は万俵家の長年の

慣例となっている。高巢相子は初めは家庭教師で万俵家に入ったのだが、妻の寧子が華族出身の世間知らずであることから、この20年来子供の教育から万俵家の家計に至るまですべての実権を握っているのである。しかも、相子は 大介の愛人として、寧子と交代でベッドを共にしていた。このころ、金融再編成のニュースが新聞紙上で取り上げられ、大介の心中は穏やかではない。彼は、預金順位第10位の阪神銀行

を有利な条件で他行と合併させるべく画策中である。

長男の鉄平は、万俵コンツェルンの一翼をになう阪神特殊鋼の専務だが、会社を発展させるべく高炉建設の融資をメインバンクである阪神銀行に頼むが、父の大介はなぜか鉄平に冷淡だった。大介の父親の敬介に容貌も性格も似た鉄平が、嫁いで間もないころの寧子を敬介が犯

した時の子供だと思い続けているのである。融資の増額を懇望する鉄平に対し、大介は再度はねつける。だが、鉄平に好意を寄せる大同銀行の三雲頭取（二谷英明）と鉄平の妻早苗の父で自由党の大川一郎の口利きで、念願の高炉建設に取り掛かれた。しかし、高炉完成の直前、突然高炉が爆発し、死傷者多数という大惨事が勃発した……

（解説）

1970年3月より72年10月まで2年7カ月にわたって『週刊新潮』に連載された山崎豊子の原作を、同氏の『白い巨塔』（1966年）を映画化した山本薩夫が監督した。山崎豊子は週刊誌連載が終わっても、さらに取材と加筆修正を加え、73年には単行本として発刊された。山崎豊子は再三、この映画はフィクションで実在する銀行や人物とは直接関係ないと強調している。しかし、週刊誌掲載当時からモデルと噂される銀行では、頭取から守衛に至るまで『週

刊新潮』を読んでいたとのことであり、それだけ彼女の綿密な調査と取材は真実味を増していたのであろう。山崎豊子の執念を、監督山本薩夫は富と権力をめぐる生臭い人間ドラマとして、骨太の演出で一気に描いた。この映画の魅力は、佐分利信をはじめ、当時の日本映画界を支えた多彩な俳優陣である。まさにオールスターキャストであり、日本映画良き時代の遺産である。

平成 25 年度第 17 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2013. 12. 9〉

荒野の 7 人 The Magnificent Seven

製作：1960年 アメリカ 上映時間：128分

監督：ジョン・スタージェス

主演：ユル・プリンナー、スティーヴ・マックイーン、チャールズ・ブロンソン
ジェームス・コバーン、ブラッド・デクスター、ホルスト・ブッフホルツ
ロバート・ホーン

（あらすじ）

メキシコの寒村イスカトランの村人たちは、毎年収穫期になるとカルヴェラ率いる夜盗の集団の略奪に困りはてていた。もう我慢ができないと村の長老に相談して、村の金をかき集め

て銃を買って戦うことを決意した。銃を買うために国境のアメリカの町に来た農民は、町で起きたトラブルを鮮やかに解決したガンマンのクリス（Y・プリンナー）に目を着け、事情を

話し、一人20ドルでガンマンを雇うことにした。真っ先に手を挙げたのはクリスを手伝って騒ぎを鎮めたヴィン（S・マックイーン）と騒ぎを見ていたチョコ（H・ブッツホルツ）の2人で、まず3人になった。それにクリスの旧友のハリー（B・デクスター）と朝飯代の代わりに薪割りをしていた早撃ちの名人オライリー（C・ブロンソン）、ナイフ投げの名手ブリット（J・コバーン）、落ち目のガンマン、リー（R・ボーン）と7人集まり、村に向かった。7人のガンマンを迎えて村は一変した。クリス

は農民に戦いの用意をさせ、防壁を築いたり、銃の操作を教え込む。7人のガンマンと農民との間に奇妙な連帯感が生まれてきた。若いチョコはベトラという村の娘と親しくなった。ある日、カルヴェラー味が村を襲ってきた。壮絶な銃撃戦の末、夜盗は多くの仲間を倒され撃退された。クリスはこの際一気に夜盗を撃滅すべきと根拠地を襲ったが、農民の裏切りで誰もおらず、かえって、ガンマンの留守を夜盗に狙われ、村は占拠された……。

（解説）

御存じ、黒澤明の名作『七人の侍』のリメイク版である。1954年に発表された黒澤明監督の『七人の侍』は世界の映画人に大きな衝撃を与えた。当時、ハリウッドのスーパー・スターだったユル・ブリンナーは映画を見るなり、即座に自ら西部劇に翻案することを決意し、映画化権を東宝から買い取った。しかし、彼自らの製作は果たせず、ジョン・スタージェスがミリッシュ・カンパニーと共同で製作、監督をし、ブリンナーは主演にとどまったという。西部劇になった『七人の侍』はウォルター・ニューマンの脚色により、ほぼ忠実に再現されているが、

主人公の浪人（武士）とガンマンの違いから、黒澤映画の哲学は姿を消し、娯楽映画に徹し切った映画になった。

黒澤映画との登場人物の比較

クリス（Y・ブリンナー）…勘兵衛（志村喬）。
ヴィン（S・マックイーン）…五郎兵衛（稲葉義男）と七郎次（加藤大介）の合作。チョコ（H・ブッツホルツ）…菊千代（三船敏郎）と勝四郎（木村功）の合作。オライリー（C・ブロンソン）…平八（千秋実）。ブリット（J・コバーン）…久蔵（宮口精二）。ハリー（B・デクスター）とリー（R・ボーン）はオリジナル。

「浮雲俳句会」抄録 No.24

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

《 冬 ; W i n t e r 》

俳句における「冬 ; W i n t e r」は、立冬（今年の場合11月7日）から節分（2014年2月3日）までの3ヶ月である。

この冬の3ヶ月は、初冬・中冬・晩冬に分けられる。しかし、俳句ではこれらを、11月は神無月・12月は師走・1月は新年と呼ぶ場合が多い。いずれにせよ、冬は、一年の中で最も寒い季節

であり、最も昼間が短く夜が長い時期である。それだけに、動物は活動を控え、さまざまな方法で冬眠や越冬に入る。更に植物は、落葉樹は葉を落とし、宿根草は地上部を枯らす。人間も、防寒のため冬服に着替え、襟巻や手袋などの防寒具を着用する。

【神無月（11月）】

旅に病んで夢は枯野をかけめぐる 芭蕉

松尾芭蕉の辞世の句。「旅の人」芭蕉は、死んでも夢は〈枯野〉を駆け廻っていたのだ。元禄7年10月12日俳聖と尊崇され、大阪で没し、大津市の義仲寺に埋葬されている。

海に出て木枯帰るところなし 誓子

山口誓子の代表作。〈木枯〉は、陸で猛威を奮っていたが、海に出ると吹き枯らすものがなくなっている。万物は、やがて無に帰すという絶望感が籠った句である。

また余震またも微動や神無月 一清

【師走（12月）】

何に此の師走の市に行く鳥 芭蕉

師走と云ふ言の葉ゆゑにせはしくて 不二子

これら2句を見ても、何となく、人々の忙しく走りまわるさまが、伝わって来る。また12月は、年を締め括ったり、一年を振り返ったりするため、行事が多い月。例えば、針供養・お歳暮・忘年会・クリスマス・誓文払い・餅つき……など。

長崎に雪めづらしやクリスマス 風生

ともかくもあなた任せのとしの暮 一茶

師走もうわれより先を走りをり 一清

【新年（1月）】

新年は、まさに一年の中の一番目の月。俳句上は、年の初めの祝いをする1/7までの「松の内」と、「寒の内」すなわち寒の入り（小寒）1/8ごろから節分までの30日間に分けるのが通例。

「松の内」

更けて焼く餅の匂や松の内 草城

年の初めの行事が多く、例えば、元日・お年玉・初詣・門松・書き初め……など。

「寒の内」

寒きびし一刀彫のごとくなり 青園

寒月や野島百軒眠らせて 一清

寒気きびしい厳寒、酷寒など如何にも、寒そうな感じの寒さ。更に心理的な寒さまでが、加わる時期である。

《14回金沢区民俳句大会吟行会への参加 H25年10月27日》

今回の金沢区民俳句大会14回吟行会は、吟行場所として初めて、長浜公園を選んだ。

長浜公園は、昭和40年代に始まった金沢地先埋め立て工事の当初から、公園用地として計

画的に確保。昭和57年に一部開園し、その後、運動施設や子供の遊び場などの整備も進めら

れ、平成4年に野鳥観察公園の整備を終えて全面開園された。

特に、この野鳥観察園は、横浜で初めての人工干潟を持つ汽水池や湧水を利用した淡水池・アシ原など、多くの生き物が暮らせるように造られている。

〔 秀作 〕

天賞 汽水湖のさざ波きらら野分明け 十九

鮮やかな囁目吟。本吟行会の前日には、台風28号が関東沿岸を通過したばかりである。そのためもあって、当日は、台風一過の吟行日和。この点、下5で〈野分明け〉と的確に断定。さすがに地元在住の御仁ならではの秀吟である

地賞 西行も詠みし鳴立つ観鳥園 重九

鳴（しぎ）は種類が多い。おそらく磯鳴ではなかろうか。磯鳴は、国内各地で繁殖し、尾羽を上下に振って歩く個性派。魚も食べるが主食は昆虫。

西行も詠んだという〈鳴〉が、〈観鳥園〉から見られたというのである。市街地の中の長浜

〔 特選 〕

命秘め団栗あまた地に還る (他の結社)

木の実落つ踏んでピチピチ雨後の径

(他の結社)

この長浜公園の初吟行会で、天・地・人賞の総てを、わが浮雲俳句会のメンバーが手中に収めた。

公園で、素晴らしい俳材を見付け、その感動を即興した力量は抜群である。

人賞 汽水池に幾何学模様鴨来る とも女

的確な囁目吟。今年も〈鴨〉の季節が到来した。多分、小鴨であろう。小鴨は、冬にやってくる鴨の中では、いちばん早く来て、しかも、いちばん遅くまでいる鴨。その小鴨が、〈幾何学模様〉のデモンストレーションである。

小鴨は、ほかの鴨があまり来ない小さな貯水池や公園などにも多く見られ、わけても、当園のように周囲に葦原などのある浅い水場を好むという。

猫じやらし老いの足元迷わせる (他の結社)

初鴨の声透きとほる汽水池

十九

秋の空角川季寄せ源義忌

一馬

《74回例会 H25年11月24日》

〔 秀作 〕

天賞 4ノット黒潮疾し冬銀河 国眼

シンプルな虚子型俳句。天と地(海)の対比。天には、〈冬銀河〉が長々と横たわり、地には、〈黒潮〉が滔々と流れる大景を17音に纏めた力量に感服。

また鳴門海峡は、時速12ノットの速さ。一方の〈黒潮=日本海流〉は太平洋西部を流れる暖流。台湾の東方を北上し、日本列島に沿って

千葉県沖から三陸沖に至り、東に転ずる。しかも海水は濃い青色をしており高温。時速〈4ノット〉(7.4キロ)の潮流である。

この数字による具体的な表現が素晴らしく、そのため(黒潮)の迫力を一段と高めている。

地賞

風に和しラインダンスの懸大根 とも女

比喩的効果抜群の写生句。今時分、三浦半島へ行くと、掘り出したばかりの大根を〈懸大根〉にして、乾燥している様をよく見掛ける。この

〈懸大根〉が、〈風に和し〉〈ラインダンス〉のように、白い大根の脚線美に譬えたのである。それは、大劇場で大勢の踊り子が、一列になって踊るダンスを注視しているようである。

レッツ・ゴー・ダンス ！

人賞 紺青へ舞ふ大鷹の幼鳥 一馬

鷹の生態をよく把握した一行詩。鷹は種類が多い。この点、〈大鷹〉は、中型の鷹で、翼長30cm、背は灰黒色、腹は白くて黒い横紋がある。昔、鷹狩りに使われていたのが、この〈大鷹〉。一歳のものを「わかたか」、二歳のものを「かたがえり」といい、掲句の〈大鷹の幼鳥〉は、一歳のものである。

この〈幼鳥〉が、〈紺青〉の大空で舞っているのだ。なお、〈舞ふ〉が句またがりであるが、

これがかえって、〈幼鳥〉と連動し、句全体を強調している。

〔 特選 〕

黒潮の唄聞く宿の白障子	十九
鷹一羽犬吠埼を睥睨す	祥代
鷹迅し野鳩めがけて鉤の爪	重九
二代目のをんな鷹匠特訓中	勝美
槽のなかおでんぐつつぐつ句ひ立つ	勇平
山茶花のむくなる白き三島の忌	二祥
街そぞろむかし流行の冬着着て	一幸
兄の忌や朽葉濡れみる赤城山	好童

《75回例会 H25年12月22日》

〔 秀作 〕

天賞 父遺す挿絵の多き古日記 とも女

亡父に対する追憶俳句。生前見た事のない亡父の日記。〈挿絵〉（文章に関係のある絵＝カット）の多さに驚く。とりわけ作者は、日本舞踊の名取を目指しているが、その所作を、あちこちにカットしてあることに驚嘆。父への想いと、父に対する追憶に耽ったのである。

地賞 吊したる鮫鱈捌く若大将 一祝

〈鮫鱈〉は、体長1.5mにもなる深海魚。12月頃産卵のために深海から浅場へ。頭が大きく、腹がふくれて見るからにグロテスクな体形をしている。

因みに、〈鮫鱈〉の吊るし切りは有名。この〈鮫鱈〉を魚屋の〈若大将〉が手際よく捌いている。大きな〈鮫鱈〉を手際よく捌く魚屋の〈若大将〉の残像が、いつまでも残る佳句である。

人賞 大海原はるかな島の灯が冴ゆる 勇平

大海原の眺望俳句。闇夜の鎌倉海岸であろう。はるか彼方を見ると、〈島の灯が〉かすかな光を放っている。しかも、それは〈冴え〉わたった大海原のかすかな光明として捉えたのだ。

多分その〈島の灯〉は、伊豆大島のものであろう。先般伊豆大島では、台風26号に伴う記録的な豪雨により、大規模な土石流が発生。36人もの死者を出したが、その後どうなっているだろうかと、心配しつつ、注視しているのだ。

〔 特選 〕

海越しに師走の富士や三保の松	好童
ビニールを剥がすがごとく切る鮫鱈	一馬
泥つきの飛騨の太葱届きけり	二祥
称名寺苔を禱の散紅葉	十九
降る雪や津軽三味線撥の音	祥代
ギネス下駄天狗蹴飛ばす節季かな	国眼

神奈川県西部の寺社を訪ねる

「寺社を巡る会」 飯富 禧子

快晴だけれど今冬一番という寒さの中、「寺社を巡る会」恒例の特別探訪バスの旅が予定より10分程早い出発で始まった。今回は8回目である。途中、朝の冷気が澄み渡る中、凜と静まる富士の霊峰を車窓から望むことが出来た。富士山はやっぱり美しい！

最初に訪れたのは箱根外輪山明神ヶ岳の麓に約27万㎡の広大な寺域を有する曹洞宗の古刹大雄山最乗寺である。最乗寺は福井県の永平寺、鶴見の総持寺に次ぐ格式を持つ大寺である。この寺は天狗伝説に彩られ、道了尊とも呼ばれ親しまれている。



最乗寺 御真殿

私達が乗ったバスは老杉が林立する長い参道を進んだ。バスが進むに連れ、車窓から見える老杉は太く見事になっていく。300年から500年経過した杉が17万本もあるという。驚きの数だ。下車後、三門に至るまでの参道の老杉には更に驚かされた。根の上1m位から幹がV字に伸び、しかもV字に伸びた2本の幹が並みの大木の太さを超えているのである。双胴杉というそうだ。双胴杉はこの寺域には大変多い。最乗寺では「和合の杉」といい、夫婦和合の象徴としている。

実は老杉の数の多さには秘密があった。この寺は600年前、了庵慧明禅師が開山となって開いたが、開山の折、了庵禅師の弟子で靈験あらたかな故に、後に道了大薩埵と尊名で呼ばれることになった道了が、空を飛んで馳せ参じ、五百人力ともいわれる怪力で土木の業に従事、深山のこの地を約1年で切り開いたと言われる。了庵禅師が遷化すると、道了は「以後山中にあって大雄山を護り多くの人々を利済する」と唱えて山中に身を隠されたとか。空を飛んで馳せ参じた時に天狗となって飛び来たったのか、山中に身を隠された時に天狗となって飛び去ったのかはガイドの説明では判然としなかったが、この説話が天狗伝説を生んだことは疑いない。以後、十一面観音菩薩の化身とも称され、諸願成就の道了大薩埵が鎮座する「道了尊」として絶大な尊崇を集めることになった。その証拠が参道を埋め尽くす「道了講」の石碑であり、幾多の杉苗の奉納石碑である。最乗寺は釈迦牟尼仏を本尊とするが、天狗伝説に彩られた「道了尊」によって護られている気がする。なぜなら道了講は全国に及んでおり、杉苗の奉納碑に刻まれた杉苗の数も半端な数ではないからだ。驚くことに奉納1万本と刻印された碑がなんと多いことか。この寺域には一体何万本の杉が植林されたのだろうか？しかも、寺の神秘性を尊ぶため、杉の木や枝を切ることを禁じる達しが出されたという。これが杉の古木の数の多さの秘密である。

本堂の本尊参拝は時間がないということで本堂前での慌ただしい合掌となった。残念だったが、ガイドは釈迦牟尼仏より道了が本尊として祀られている御真殿前の天狗の高下駄を見せたかったようだ。高さ1.83m、幅1.56m、奥

行き 3.40m の赤い高下駄は確かにインパクトがあり、ガイドが見せたかった訳だと納得した。傍らには大小様々な高下駄が奉納されている。これ等も諸願成就を願って奉納されたのだと思うと仇や疎かには見られない。人々はどんな現世利益を期待して奉納したのだろうか。

次に訪れたのは、小田原市の東北部、酒匂川東方に境内を構える古義真言宗の飯泉山勝福寺である。この寺の本尊は十一面観音菩薩像、それにより飯泉観音と称され、坂東三十三観音霊場第 5 番の札所である。開創の歴史は古く奈良時代である。孝謙上皇（重祚して称徳天皇）に寵愛された弓削道鏡が、孝謙上皇から下賜された十一面観音像を奉安し、一字を建てたのが始まりと伝えられている。道鏡は病を患った孝謙上皇に侍して看病して以来その寵を受け、764 年太政大臣禪師、翌年法王にまで上り詰めた。称徳天皇崩御後はその地位を追われ、下野国薬師寺別当として下る途次、足柄郡千代の里に至って、下賜された十一面観音像を祀ったということである。創建当初は弓削氏の氏寺で補陀落山弓削寺と称し、七堂伽藍を構えていたようであるが、天長 7 年(830)の火災後に現在地に移建、その後、領主大森氏が小田原城の鬼門守護とし、現寺号に改めた。

勝福寺の入り口は切妻造り 8 脚の立派な仁王門で、安置された阿吽の金剛力士像が伽藍を守護している。この仁王像は、源頼朝が行った富士の巻狩りの際に曾我兄弟が父の仇工藤祐経を討った時、仇討祈願をして力を授かると伝わる。

現本尊の十一面観音菩薩像は、33 年毎に開扉される秘仏である。当寺住職のホームページによると「関東における 12 世紀頃の制作、中央の定朝様式の忠実な模倣」とあるので、道鏡が孝謙上皇から下賜されて祀った十一面観音菩薩像とは異なるのであろう。本尊の次回開扉は来年ということである。

私達一行は途中の交通渋滞のために勝福寺到着が遅れてしまった。予期していなかったことだが、住職が観音堂前で陽を浴びながら柔和な面持ちで待っていて下さった。感謝である。住職からは前述した内容の寺の沿革の法話、仏に仕える身に相応しいご両親の逸話などをお聞かせ頂いた。青銅製の宝珠を冠する宝形造の端正な観音堂、千年近い樹齢を誇る銀杏の巨木を後にした私たちはほのぼのとした気持ちになっていた。

昼食後に訪れたのは伊豆の地名由来の地といわれる伊豆山神社である。海拔 170m、境内からは相模灘が一望出来、遠くに大島、近くには初島が望める景勝の地である。古来伊豆大権現、走湯大権現とも称され、天台宗や真言宗と関わり深い神仏習合の神社であったが、明治の神仏分離により寺を分離、現社名に改称した。

バスを降りた私達は市道から伸びる階段を本殿目指して登った。180 段あるそうだ。生憎なことに昼過ぎから風が吹き始めた。下から吹き上げるのではなく階段を巻くような横風だった。息を切らして登り切った時、目に飛び込んで来たのは朱漆塗りの華麗な流造の本殿だった。向拝の赤・白・黄・緑の彫刻が冬の陽に映えて実に美しい。

伊豆山神社を語る時に必ず引き合いに出されるのが、源頼朝と北条政子である。頼朝については、平治の乱後に伊豆に配流された時、当社の僧覚淵に学んだ、当社に源氏再興を祈願した、伊豆の豪族伊東祐親の娘と深い中になり子供まで儲けたが、平家一門に接近していた祐親が反平家の頼朝を婿にする訳にはいかないのので討とうとした時に当社に逃げ込んだ等々、関連する逸話が多い。政子について語られるのは雨夜の逃避行である。政子の父、時政が伊豆の目代、山木兼隆に政子を嫁がせようとし、これに逆らった政子が婚礼の晩に密かに屋敷を脱け出し、雨の中頼朝の待つ伊豆山神社に走った

というドラマチックな出来事である。私は50年近くも遡る若かりし頃、『日本の女性史』という著書でこれを知り、政子の情熱にいたく感動したことを思い出す。しかし、永井路子著『源頼朝の世界』によれば、山木兼隆との婚礼の話は歴史的には信憑性が無いという。なんとなれば山木兼隆が伊豆へ来たのは頼朝の旗揚げの前年で、この時既に頼朝と政子は結ばれていたというのである。永井路子は穿った観方をしている。流人の頼朝が伊豆の有力者、伊東祐親の婿になることを画策したが失敗、次に目を付けたのが中伊豆の小豪族、北条時政の娘、政子だったというのである。当時頼朝は30歳前後、21歳とも言われている政子の方は一気にのぼせ上がったに違いないという。永井路子は更にいう。時政は頼朝を婿に迎えても何のメリットも無いと踏んで二人の結婚に反対したが、東国女らしい向う見ずな恋をした政子に時政は折れたと。これ等の話には歴史の虚実を感じざるを得ないが、雨夜の逃避行はやっぱりあったと私は思いたい。しかし、政子はどうやって伊豆山神社まで辿りついたのだろうか。馬だろうか、駕籠だろうか？『日本の女性史』には助っ人は描かれていなかった。永井路子は頼朝の側近、比企の尼の娘婿安達盛長が馬を用意したと想定している。やはり、深謀図り知れない頼朝が政子の籠絡を画策したのかも知れない。

最後に訪れたのは箱根町湯本にある臨済宗大徳寺派の早雲寺である。この寺は小田原北条（後北条）氏5代の基礎を築いた戦国武将北条早雲ゆかりの名刹である。当初は出家して早雲庵宗瑞と名乗った早雲の庵であったが、大永元年（1521）早雲の遺命によりその子氏綱が創建した。多くの塔頭が建てられ、小田原北条氏歴代の菩提寺として栄えた。天正18年（1590）4月豊臣秀吉の小田原征伐の際、氏政・氏直親子が籠る小田原城包囲のため、最初に占領されて

本陣とされた。戦乱により早雲寺の伽藍は全て灰燼に帰したが、寛永4年（1627）再建され、慶安元年（1648）になって3代将軍徳川家光から朱印状を与えられて復興した。

私達にとって間が悪いことだったが、寺は本堂の屋根替えと耐震改修工事中であった。境内は資材で混乱しており、本堂の姿を詳らかに見ることが出来なかった。ガイドの最初の案内先は後北条氏5代の墓所であった。供養塔5基は共に同じ大きさ同じ形の、石柱という表現が相応しい簡素なものであった。戦乱でかつての墓が焼失したため、4代氏政の弟の子孫、氏治が寛文10年（1670）に建立した。秀吉に滅ぼされる前の北条氏の勢力に比してなんとも寂しい墓所である。



早雲寺 後北条5代の墓所

次に案内されたのは室町時代の代表的な連歌師飯尾宗祇の供養塔である。宗祇は美濃への帰途箱根湯本で亡くなった。遺骸は富士の麓に埋葬されているが、終焉の地である当地に供養塔が建てられたのである。立派な供養塔である。宗祇の供養塔の手前には、宗祇を慕って晩年早雲寺で剃髪した稲津祇空の墓が宗祇の墓守のように建っている。最後に氏綱の弟北条幻庵作の枯山水の庭園に案内された。傾斜を持った庭に巨石を配した雄渾な庭である。見上げると紅葉の中に茅葺寄棟造の開山堂がひっそりと建っていた

『金湯山』という扁額が掲げられた早雲寺の惣門を出る頃には、北風は一層勢いを増していた。バスに戻る道すがら、思いは後北条氏の栄枯盛衰であった。一時代、栄華を極めたであろう後北条氏の余りに簡素な供養塔に、戦国の世

の覇権争いの無常を思わざるを得なかった。寒風に追われるようにバスに戻った後は、恒例の親睦会が車内で賑やかに始まり、楽しいバスの旅の締め括りとなった。

「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 NO.4

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

今回の報告のうち12月定例会「10番 初冬の大山に登る」は残念ながら実施予定日19日と予備日20日も天候不順（雨、雪）のため実施できる状態でなく最終的に中止となった。とくに20日の天候は晴の予報だが、伊勢原市役所観光課などへ問い合わせた結果、大山の山頂(1252m)付近の温度が日中でもマイナス3度と低く、風速も17m/sあり体感温度はマイナス10度以下となることが分かった。さらに凍結した山道ではアイゼンを着けていても転倒の恐れがあることから中止とした。今年は今までになく天候に恵まれず4月、6月、10月に続いて4回目の中止となった。よって今回の定例会実施報告は、11月定例会「妙義山お中道を歩く」と1月の「高川山とリニア基地」の2報告になった。なお、中止になったコースの大山について一口メモを書き加えた。お読みいただければ幸いです。

ご存知ですか！

一口メモ 大山は富士山のような三角形の美しい山容から、古くから庶民の山岳信仰(大山信仰)の対象とされ、江戸時代には、**大山詣の後江ノ島を巡り、さらには此处金沢で精進落としするのが江戸庶民の娯楽の定番でもあった。**大山は、山頂に阿夫利神社本社、中腹に阿夫利神社下社の大山寺が建っている。**大山は別名を「阿夫利(あぶり)山」、「雨降(あぶり)山」という。農耕民にとっては雨乞いの神として信仰をあつめた。**



伊勢原方面から望む大山

独自コース 9 番 妙義山お中道を歩く

11月の定例会は妙義神社を起点に妙義山のお中道を歩いた。妙義神社は創建1500年前の古刹。全国的にも珍しい黒漆塗権現造りの荘厳な建造物で、唐門・総門と並び国の重要文化財に指定されている。好天気のもと妙義山はお日様に透けた紅葉のグラデーションが岩峰に華やかさと彩りを添えていた。奇岩、怪石と合わせ、感嘆の連続だった。

実施日：平成25年11月14日 晴れ 参加者：16名

所在地：群馬県下仁田町・富岡市・安中市の境界にある

往路：湘南新宿ライン快速高崎行 横浜(6:26発)⇒高崎(8:50着)信越本線 横川行に乗換(9:29発)⇒松井田(9:53着)、タクシーで妙義神社へ(約10分程度)

復路：松井田駅(15:53発信越線高崎行き)⇒高崎駅(16:16着・乗換・16:28発高崎線)⇒籠原駅(16:59着・乗換・湘南新宿ライン快速 小田原行 17:13始発)⇒新宿⇒横浜(19:02着)

コースタイム：妙義神社に参拝し準備体操とトイレをすませて10:45出発 歩40分⇒第2見晴(11:25着⇒11:55発 昼食) 歩35分⇒本読みの僧(12:15着) 歩35分⇒四阿(12:50着、12:55発 水分補給) 歩1時間20分⇒第4石門(14:00着⇒14:20発 コーヒータイム) 歩25分⇒妙義公園管理事務所(14:35着、トイレ休憩)⇒さくらの里(きのこ館)(15:10着)タクシーで松井田駅へ(15:25発～15:45着)予定より1本早い15:53発高崎行きに乗車できた。

妙義山は日本三大奇勝の一つ

妙義山は群馬県下仁田町・富岡市・安中市の境界に位置する日本三大奇勝の一つ。妙義の名は、後醍醐天皇に仕えた権大納言長親卿が、この山を眺め、明々巍巍(めいめいぎぎ)であるところから「明巍巍」と名付けた事が、後に「妙義」となったと言われている。古来より山岳信仰の地としてにぎわい、数々の岩峰群(白雲山、金洞山、金鶏山など)が妙義山と呼ばれる山域をなす。なお、他の三大奇勝は耶馬溪(大分県)、寒霞溪(香川県)である。

冬紅葉聳える奇岩妙義山



奇石の第四石門と大砲岩



妙義山の山容

独自コース 11 番 高川山とリニア基地

実施日:平成 26 年 1 月 16 日 快晴 参加者 18 名 **距離:**約 9 km 標高差: 623m

所在地:山梨県都留市と大月市にまたがる

往 路:東神奈川駅(横浜線)7:06 発 ⇒ 八王子駅 8:04 着 八王子駅(中央線)8:09 発
(甲府行き) ⇒ 初狩駅 9:15 着。駅前で準備体操

復 路:田野倉駅 15:06 発 ⇒ 大月駅着 15:12 着 15:19 発(中央線) ⇒ 八王子駅着
16:10 16:18 発(横浜線) <東神奈川乗換>横浜駅着 17:22

コースタイム:J R 初狩駅 9:30 発 ⇒ 沢コース ⇒ 男坂合流点 11:00 ⇒ 高川山頂着
11:15 (昼食) 12:00 発 ⇒ 松葉コース (途中コーヒータイム 10 分) ⇒ 13:45
尾県郷土資料館着:(見学時間 35 分)14:20 発 ⇒ 富士急行田野倉駅着 14:50
(表題のリニア基地は新しい見学施設建設中のため臨時休館で見学出来なかった。)

見事！山頂は 360 度の展望

山頂は 360 度の展望が開け、富士山、三つ峠をはじめとした近隣の山が一望できる。山の下をリニアモーターの実験線のトンネルが貫通している。都留市内先の正面に端正な富士が姿を見せ、右には御坂山塊の山々、西に笹子雁が腹摺山、南アルプス、北に大菩薩の山々、東に九鬼山、倉岳山が見える。下山口の尾県郷土資料館は明治初期につくられた藤村式校舎(擬洋風)を活用し、明治から昭和 10 年代までの初等教育資料を展示。一見に値する資料館。

天を突く雪の富士は四方圧す



掲載記事並びにコースに関わるお問い合わせは下記にお願い致します。

小俣 悦男 メールアドレス: e-omata@mx2ttcn.ne.jp 電話番号: 045-782-8147

定例会概要に載っている写真は全て“わ”の会のHP「ふれあいの道独自コース」にカラーで写真が載っています。

「古文書を読む会」からのたより (2)

「古文書を読む会」代表 真田 雅行

当会でこれまで読んだ古文書を中心に関心のありそうなものを選んで概要を掲載します。最初は「江戸時代の主な災害」の中「地震と火山噴火」です。

小田原地震(南関東地震)

元禄 16 年 11 月 22 日 (1702 年 12 月 31 日)
深夜、房総半島の南 30 km の伊豆大島付近でマグニチュード 8.2 (震度 7) の大地震が発生した。この地震は相模トラフ (断層) 沿いのプレート境界巨大地震とされ、房総半島や相模灘沿いの陸地が 4 ~ 5 m 隆起した地点があり、津波は房総、相模灘、東京湾各地に及び波の高さが 5 ~ 10 メートルにも達したといわれ、特に津波の被害が大きい。



大正 12 年 (1923) 9 月 1 日の関東大震災も同じ相模トラフ沿いの境界巨大地震 (M7.9) であったが、元禄地震よりもその規模は小さいとされている。

特に小田原・箱根は震源地から相模湾内を北西に相模トラフという断層が走っており、その延長線上にあるため被害が最も大きく、その惨状は小田原藩家老の岩瀬家に伝わる『小田原地震覚書』(今回学習)によれば、城下の家々は悉く潰れ、30 分後には火災が発生し城下を焼き尽くし、鎮火は翌日の夕方であった。

領内の死者は 2,261 人 (内伊豆の死者 771 人)、家屋の全半壊は 836 軒に及んだ。

なお関東八カ国 (八州) の死者総数は 20 万 7 千余人とある。

幕府の日記『甘露叢』も次のように記す (小田原藩からの報告による)

相州小田原城、十一万石 大久保隠岐守 (藩主忠増 ただます)

今夜八時 (午前 2 時頃)、小田原大地震

- 一. 天守崩れ、類焼
- 一. 本丸、御殿残らず崩れ、類火
- 一. 二の丸、屋敷残らず崩れ、類火
- 一. 三の丸、侍屋布残らず潰れ、それ内五軒類火
- 一. 本丸、二之丸、三之丸、櫓門、塀、橋、石垣ともに崩れ
- 一. 外廓 (くるわ)、侍屋布残らず潰れ、其内十四軒類火
- 一. 城廻り外廓ともに、堀残らず埋まる
- 一. 往還町家等残らず潰れ、其内四百八十四軒焼失
- 一. 御高札焼失
- 一. 城付の武具損じ、或は土蔵に入置、焼失の由

「小田原城再興碑」発見!

その後小田原城は宝永 2 年 (1705) 再建に着手したが、大正 12 年の関東大地震により再度崩壊した。

然るに崩れた天守台石垣の中から偶然に下記の「天守閣再興碑」が発見された。

内容は「読み下し文」の通り、時の藩主大久保忠増が翌年から再興に着手したことを伝える貴重なもので、前述の『小田原地震覚書』とも矛盾しない。

なお、赤穂浪士の吉良邸討ち入りは、小田原地震より 1 年前の元禄 15 年 (1703 年) 12 月 14 日であった。



小田原城再興碑
 高さ4.3m 幅0.6m 重0.4m
 小田原城天守御城
 大田原軍城跡によるお堀跡に際して発見されたと伝えられています。天守台のお堀跡として使用されていたと考えられます。

元禄十六未十一月廿二日夜八ツ三分時（さんぶどき）、小田原大地震二而、御天守・御本丸御殿・二ノ御丸御屋形不残震禿（のこらずふるえつぶれ）、其上出火有之不残焼失仕候、其外所々御門并堀土居石垣不残震崩（くずれ）申候、御家中屋鋪々并町屋迄不残禿（つぶれ）申候、右之内焼失家杉浦平大夫、岩瀬織部、加藤孫太夫、渡辺十郎左衛門、服部十郎兵衛、辻七郎左衛門、杉浦一学、大久保武大夫、近藤庄右衛門、村松兵左衛門、坂部新右衛門、捨木治左衛門、武藤伯庵、志摩新兵中根源五右衛門、中根郷大夫、石井清右衛門、石原伴右衛門、以上侍屋鋪拾八軒、其外小川定右衛門、棚橋半七、町同心小屋不残欄干橋町・中宿町・

元禄十六未十一月廿二日夜八ツ三分時、小田原大地震二而、御天守・御本丸御殿・二ノ御丸御屋形不残震禿、其上出火有之不残焼失仕候、其外所々御門并堀土居石垣不残震崩、御家中屋鋪々并町屋迄不残禿、右之内焼失家杉浦平大夫、岩瀬織部、加藤孫太夫、渡辺十郎左衛門、服部十郎兵衛、辻七郎左衛門、杉浦一学、大久保武大夫、近藤庄右衛門、村松兵左衛門、坂部新右衛門、捨木治左衛門、武藤伯庵、志摩新兵中根源五右衛門、中根郷大夫、石井清右衛門、石原伴右衛門、以上侍屋鋪拾八軒、其外小川定右衛門、棚橋半七、町同心小屋不残欄干橋町・中宿町・

『小田原地震覚書』

金沢の仏教寺院（2）

「寺社を巡る会」 熊谷 哲

—小田原北条氏とその家臣の時代と蓮如—

室町時代後期小田原北条氏は南関東を制圧し、金沢は扇谷上杉氏に代わり北条氏綱が支配しましたが、永禄以降は北条氏の支城制度により玉縄北条氏の支配下に置かれました。

○**伝心寺**——本堂の屋根に北条氏の家紋の三つ鱗が光っています

町屋にある曹洞宗の寺。大永1年(1521)に小田原北条氏綱(1487～1541)が開創しました。氏繁(1536～1578)説もある。寺伝では「北条時頼(1227～1263)が開基、宗祖道元が同年から翌春頃まで当寺で説教を行った」とされる。本尊は釈迦如来、寺宝に大般若経 600 巻があります。境内に伝氏繁の墓塔があり、また境外墓地(旧乙舩海岸)に伝海入定塚があります。

○**禅林寺**——坂本村は紅葉山東照宮の神領地で村役免除などの特権があった



家康画像(禅林寺蔵)

釜利谷(旧坂本村)にある曹洞宗の寺。本尊は薬師如来。明応2年(1493)開創と伝えるが衰退、領主の伊丹永親(?～1558)が中興。後代は小田原北条氏に仕えた。子孫の忠尊・忠運は浅草寺や江戸幕府との関係が深く、坂本村は紅葉山東照宮の御神領となり、寺には家康の御真影(左図)や御道具が下賜され寺宝となっています。旧本尊の華嚴会釈迦如来

と小泉弁天社本尊の弁財天像が祀られています。毎年6月には家康忌が営なまれます。

○**長昌寺**——小田原北条氏の制圧下でも安房の里見の水軍は強力でした

富岡の旧東海岸にある臨済宗建長寺派の寺。小田原北条氏の家臣柳下豊後守が天正2年(1574)妻の菩提を弔うために開創した長昌庵が基、後に長昌寺となりました。現本尊は釈迦如来。文禄2年(1593)安房から賊が来襲し、本尊の阿弥陀如来を奪い、豊後守は手疵を負い、それが元で死去しました。奪われた如来が安房に悪病やたたりをもたらしたとして返却されたという伝えがあります。

本堂裏に芋観音堂があり、古くから疱瘡(天然痘)除けに靈験があるとして尊崇されました。保土ヶ谷宿金沢横町に「富岡山芋大明神えの道」の道標がある。直木三十五の墓があり、それに因んで毎年2月に南国忌が営まれます。

○**長生寺**——浄土真宗中興の祖の蓮如ゆかりの寺

寺はもと真言宗の寿楽寺といい、釜利谷の小泉の谷戸にあったが、康安の頃(1361～62)現在の六浦に移りました。文明年間(1469～87)に安房から三浦に渡る船中で住僧が、蓮如(1415～99)の教化を受け、頓乗の法名を授かり、天文1年(1532)改宗改名して長生寺になりました。享保8年(1723)桃溪が中興。本尊は阿弥陀如来。桃溪は六浦の出身で宗門きっての逸材とされ、本願寺で典講に任じられ、更に第三世能化(学頭)になりました。

浄土真宗名は明治以降に公称された宗名で、

それ以前は一向宗と呼ばれていました。

○**金蔵院**——伊丹氏の祈願所だった。経貞の4代目永親から小田原北条氏に仕えた
釜利谷にある真言宗御室派の寺。手子神社創

建の文明5年(1473)頃、伊丹経貞が創建。本尊は大日如来。境内に明和4年(1767)造立の宝篋印塔があり、願主として20余名の地元農民の名が刻まれています。

—徳川旗本の寺と金沢八景ゆかりの寺院など—

江戸時代には寺院の本末制度(本山-末寺の制、元和1年=1615)と寺請制度(寛文4年=1664)(總檀家制、移動には寺請証文必要など)により寺院が幕府の支配機構に組入れられ、寺院は大きく変化しました。

中後期には瀬戸の入海の埋立などの地形変化により金沢八景探勝の中心が能見堂から瀬戸・六浦に移りました。江ノ島・鎌倉からの遊覧客が増え繁盛しました。また「金沢札所三十四観音霊場」の巡拝も行われました。

○**慶珊寺**——境内に「米軍富岡空襲犠牲者供養塔」がある

富岡にある真言宗御室派の寺。旧名は宝龍寺、寛永1年(1624)富岡の領主で旗本の豊島明重(1579~1628)が慶珊寺として再興。花翁山の山号と寺名は明重の父母の法名に由来する。本尊は大日如来。寺宝は十一面観音半跏像(県重文)、愛染明王坐像、大般若経600巻など。明重は寛永5年江戸城内刃傷事件(江戸城西の丸で老中井上正就を刺殺)を起こし切腹、子息継重も切腹、豊島家は断絶しました。

明治初期へボン式ローマ字で有名な米国人へボン(1815~1911)が避暑のため逗留し海水浴を教えました。

昭和20年6月10日の米軍による富岡空襲では犠牲者が寺に運ばれ凄惨を極めました。門の脇に「孫文上陸記念碑」があります。孫文(1866~1925)は中国辛亥革命の主導者、大正2年富岡に上陸しました。

○**金龍院**——近くに料亭旅館や遊覧船発着場もあり金沢八景遊覧の中心的存在だった

瀬戸にある臨済宗建長寺派の寺。能仁寺(金沢八景駅西側の谷戸にあった)の塔頭、能仁寺

開山の方崖元圭(?~1383)が塔所(墓所)として創建。本尊は宝冠釈迦如来坐像、寺宝に聖観音菩薩坐像、方崖元圭坐像(県重文)など多数。裏山の九覧亭(市登録史跡)は金沢八景の眺望台として江戸時代後期には非常に繁栄しました。多種多様な金龍院版の金沢八景絵図が発行され、版木の一部が現存。龍石の伝説もあります。

○**光伝寺**——裏山は鎌倉から来ると最初の金沢八景展望台で茶店もあり大変に賑わったという

六浦にある浄土宗の寺。天正1年(1573)寺を創建した開基の長野六右衛門と本尊の阿弥陀如来立像についての伝承があります。寺宝は地藏菩薩立像(県重文)、両躰弁財天像(秘仏)。侍従川が寺の中を流れていたので「寺中川」が転化して侍従川になったという説がある。裏山中腹に並木天満宮があります。観光客用に絵図(富士山も描かれている)を刊行していました。

◆シリーズの最終に、広重の描いた金沢八景図の「称名晩鐘」を掲載します。



入相の鐘を聞いて漁夫が舟上で祈りを捧げており、鐘の音が聞こえるようなしっとりとした情景です。我々「寺社を巡る会」はいつもこのような敬虔な気持ちで寺社を巡っています。

—七柱の神と金沢の七福神—

七福神とは、福德をさずける神として信仰されている七柱の神をいいます。

七福神信仰は仏教、儒教、神道から福德の神として、仏典(仁王般若経)にある「七福即生」とか「竹林の七賢」などの聖なる数とされる「七」の数に合せてまとめられたた日本独特の民間信仰です。室町時代後期に始まり、江戸時代に盛んになりました。正月に七福神詣でをして福德を祈る。また宝船に財宝と共に乗った七福神の絵を枕

の下に敷き、目出度い夢を願うことも流行しました。七福神の絵は縁起物として床飾りなどにもてはやされました。今も各地での七福神詣では中々の人気があります。ここ金沢でも近年七福神詣でが盛行しています。

○**恵比須**：恵比寿・夷・蛭子とも書き、西宮神社の祭神蛭子尊の別称。七福神のうち唯一日本由来の神。海運・漁業・商売繁盛の神。太った体で釣竿を持ち鯛を抱える姿。金沢では富岡八幡宮に祀られている。

○**大黒天**：元は印度のシヴァ神、のち仏教の守



徳谷貢氏提供

護神。大国主命と習合し民間信仰に浸透。裕福・食物・財福を司る神。台所の守護神ともなった。頭巾をかぶり大きな袋を脊負い打出の小槌を持ち米俵を踏まえる。金沢では洲崎の龍華寺に祀られている。

○**毘沙門天**：元は印度の財宝の神。仏教に採り入れられて四天王の一つとなる。多聞天ともいう。財宝を授ける神。七福神の中で唯一甲冑で身を包んだいかめしい姿。町屋の伝心寺に祀られている。

○**弁才天**：元は印度の河神で学問・芸術の守護神で女神。日本では財福・福德賦与の神として弁財天と称された。琵琶を持つ。瀬戸神社に祀られている。

○**福祿寿**：中国の道教に由来する。幸福・封禄・寿命を象徴。南極星の化身とされる。寿老人と共に長寿の神。短身長頭で白ひげが多く経典を持ち鶴を従える。釜利谷の正法院に祀られている。

○**寿老人**：中国の道教に由来する。長寿を授けるといふ。長頭の老人で巻物を付けた杖を持つ。福祿寿と同一神だとする説もある。柴の寶蔵院に祀られている。

○**布袋**：中国に実在した僧で、弥勒の化身とされる。円満な人格・富貴繁栄を司る。大きな袋を脊負った太鼓腹で和やかな笑顔。富岡の長昌寺に祀られている。

◆金沢の七福神の石像写真は「変わりゆく横浜・金沢の風景」の各項目のWebに収録されています。但し弁才天石像写真は琵琶島神社のWebにあります。

会員からの寄稿-オリンピックの思い出

金メダル第1号は「小さな巨人」

中村 徳次

「ええ?!」が最初の反応だった。新米記者がもらった第1号の取材先は重量挙げだった。「あんな鐵の輪を持ち上げて、どこがおもしろ

いの?ただの力比べじゃないか」。ルールは何も知らない。「しかたない。記録だけでも取りに行くか」と、会場の渋谷公会堂に向かう。

関心がないからはじめのうちはぼんやり見ているだけ。しかしまもなく「待てよ」と思うようになってきた。舞台の中央に立つ競技者は、炭酸マグネシウム（滑り止め）をグローブに塗り、バーベルのバランス確認をしながら審判の合図を待っている。さらには試技を成功させて、あとどのくらいのバーベルを追加するかなどをコーチと相談する。

順番を待つ控え場所の選手も同様だが、精神を集中させるため、檻の中のゴリラのように行ったりきたりするものもいれば、一か所にじっと坐るなどさまざまだ。選手の顔つきを眺め、精神状態を推測するのが面白くなってきた。

身長 158 センチの三宅義信選手はフェザー級（リミット 60 キロ）重量挙げのチャンピオンだった。4 年前のローマ五輪銀メダリスト。東京大会では金を期待されていた。しかし出場前の 2 日間は練習をほとんどしない。箸より重いものは持たず、深夜 1～2 時ころまでトラン

プなどをし、わざと寝不足を誘った。「4 日前まで何億回も上げている。2 日ぐらい練習しなくても大丈夫」と三宅式調整法にこだわった。

五輪委員会も環境を整えた。開会式（10 月 10 日）直後に重量挙げの試合日程を組み、ローマの銀メダリストを優勝させて大会を盛り上げようとしたのだった。作戦は大成功。プレス、スナッチ、ジャークの試技をそれぞれ 3 回、合計 9 回をすべて成功させ、397.5 キロの世界新記録を樹立した。それは日本選手が獲得した合計 16 個の金メダルの第 1 号であり、国中を沸かせた。

重量挙げの楽しさは何か。自分の体重をはるかに超える重さのバーベルを両手で頭上に持ち上げる。腕力勝負の競技だと思われがちだが、実際は足腰のバネやスピード、バランスとタイミング、精神面の強さが重要な要素だという。

50 年前の聖火リレーの写真

伊達 一雄

東京オリンピックの開催が決まって古い資料を調べたら 1964 年開会式前日の聖火リレーを撮影した写真が出てきた。

当時私は社会人 2 年目、桜田門にある旧警視庁の 2 階にあった民放テレビの記者クラブ詰めであった。開会式の前日聖火リレーが皇居前に向うことを知り、家にあった安いカメラを用意して待っていた。お濠に面したクラブの窓から国会議事堂方向を見たら聖火の煙がみえたのでシャッターを切ったのがこの写真である。都電のレールの上を走るランナーの数に比べて観衆が少なかったことを覚えている。

このあと 3 コースの聖火リレーが合流する皇居前に行き集火式も撮っている。

勤務中なのにクラブを抜け出せたのは何も事件がなくひまだったと思いたいが、勝手な口実を設けてさぼったのかもしれない。

私は大学で陸上競技をやっており東京オリンピックには先輩、同輩、後輩あわせて 8 人が選手として出場していた。開会式はテレビで見たが、その後彼らの姿を見た記憶が全くないのは真面目に仕事をしていたということだろう。

どうしても見たかったのは大松博文率いる東洋の魔女が金メダルを賭けてソビエトと対戦した女子バレーの決勝である。

10 月 23 日の決勝のテレビ中継は午後 7 時 20 分から始まったが、何と私はまったく見る事が出来なかったのである。

その訳はハンガリーのカーヌー選手がアメリカに亡命するため羽田から出発するのを取材に行かされたのである。よりもよってこんな時にとブツブツいいながら原稿を送り終わったのは金メダルに日本中が沸き返った後だった。「金メダルポイント」の実況で有名な女子バレー決勝のテレビ視聴率は 66.8%だった。これは未だに破られていない日本のスポーツ中継の最高視聴率である。

その後スポーツの仕事が長かっただけに、女子バレーの決勝を生で見えていないことは、私の一番“口惜しい思い出”になっている。

オリンピックを取材したのは 1988 年のソウル大会だけである。

リタイアして 15 年が経った 2013 年、東京が 2 度目の挑戦でオリンピック招致を勝ち取るとは正直なところ予想をしていなかった。

この聖火リレーの写真を見て思うのは、あれからもう 50 年も経ったのかということである。また先頭を走っていた聖火ランナーはどんな人か分からないが、今どうしているのか何故か気になっている。

あと 6 年、次の東京オリンピックを見ることを目標にしたいと思う。



筆者撮影の“旧警視庁より見た聖火リレー”

* この写真ともう 1 枚を下記ホームページに掲載。より鮮明な画像をお楽しみ下さい。

<https://picasaweb.google.com/wanokai.kanazawa/1964109?authkey=Gv1sRgCJ7mzsHxi0eg6gE#>

‘64 東京オリンピック後日談 あるアスリートの死

渡邊 紀一

昭和 43(1968)年、年明け間もない、1 月 9 日午前 11 時頃、東京・練馬の自衛隊体育学校宿舎で東京オリンピック・マラソン銅メダリストの円谷幸吉が髭剃り用剃刀で頸動脈を切って死亡しているのを隣室の同僚が発見した。遺体のそばには両親や兄弟にあてた遺書が置か

れていた。享年 27 歳だった。この年はメキシコオリンピックが予定されていた。この英雄の突然の死は驚愕をもって報道された。

日本が終戦のどん底から這い上がりもはや戦後ではないと言われるほど高度経済成長を成し遂げ、その集大成としてアジアで初のオリ

ンピック開催が東京オリンピックであった。そんな訳あり、事情のオリンピックであった。

「遺書

父上様、母上様 三日とろろ美味しうございました。

敏雄兄、姉上様 おすし美味しうございました。

克美兄様、姉上様 ブドウ酒、リンゴ美味しうございました。

巖兄、姉上様 しそめし、南ばん漬け美味しうございました。

喜久造兄、姉上様ぶどう液、養命酒美味しうございました。又いつも洗濯ありがとうございました。

幸造兄、姉上様往復車に便乗させて頂きありがとうございました。

正男兄、姉上様お気を煩わして大変申し訳ありませんでした。

(中略)

父上様、母上様、幸吉はもうすっかり疲れ切ってしまいもう走れません。何卒お許し下さい。気が休まることもなくご苦労、ご心配お掛け致し申しわけありません。

幸吉は父母上様の側で暮らしとうございました。」

文末には「メキシコオリンピックのご成功お祈り申しあげます。」と結ばれていた。

当時、この遺書のことは何度と目にし、耳にしたものだった。家族に対する敬愛と思慕が滲み出た遺書だった。が私にはこれは一篇の詩に思えるのだが美化し過ぎだろろうか。マラソンは孤独が故に過酷で非情なスポーツと思う。オリンピックの銅メダリストとしては優しすぎるように思うのだがどうだろうか。

円谷の葬儀に君原は「メキシコで日の丸を掲げる」という弔文を送っていた。果たして君原は銀メダルを獲得した。

円谷は昭和 15 年福島県須賀川市に生まれた。7 人兄弟の 7 人目だった。そして県立須賀川高校 2 年生の時に福島縦断駅伝の代走を務め、その際に区間新を出したのを機に陸上競技への道を歩み始めた。そして卒業後は自衛隊郡山駐屯隊に入隊。ここは規律正しい生活の中で十分な練習時間が取れる格好の職場だった。

マラソン当日、故郷須賀川から 100 人がバス 2 台で上京、在京の 500 人と共に応援のため沿道に散った。父、幸七は「走れ幸吉」と書いた幟を持ってメインスタンドに陣取った。午後 1 時から須賀川市内の人通りは絶えた。皆 TV の前に今か今かとその時を待っていた。母ミツはゲート近くの観客席で見っていた。

昭和 39(1964)年 10 月 21 日午後 1 時、代々木国立競技場を大歓声に送られ出発した。新宿で明治通りを抜け甲州街道へ入り調布で折り返したとある。2 時間 10 分後、最初に帰ってきたのはエチオピアの軍人「シューズを履いた」アベベ・ビキラだった。そして 4 分ほど遅れて来たのが円谷だった。しかしそのすぐ後には外国人選手が後に迫っていた。ごちない走りの円谷が苦しそうに身体を揺さぶるように今で言う「トラック勝負」となるところであるが、明らかに抜かれるのは誰にも明瞭であった。円谷自身はそんな切迫した状況を知らぬげである。後続選手の位置を確認するでもない円谷を見るものに切齒扼腕を抱かせた。

円谷が小学生の時、運動会の徒競走で走っていた。走りながら後ろが気になってしようがない。振り向き振り向き走った。一着ではあったがその後見物に来ていた父親にきつく叱られたという。『男が一度こうと決めて走り出したらどんな事があっても後ろを振り返るなんてことをするんじゃねえ』と言われたと言うのだ。以来父の言いつけを愚直に守って振り返ることはなくなったという。

この時のレースの様子は鮮明に覚えているのだがこの日は水曜日で出勤しており直接には見ていないはずである。事あるごとに繰り返し放映される TV で見た印象が記憶の片隅に張り付いた残像なのかもしれない。

円谷に関する記述を読むと君原の名前がよ

く出てくる事に気付く。二人の友情は練習に明け暮れた半年の合宿生活で培われたものと言う。この東京オリンピックマラソンには円谷の他に君原健二と寺沢徹がエントリーされていた。君原が最もメダルに近く、円谷はマラソンの経験が浅く有力視されていなかったのが下馬評だったという。円谷が競技場に入ったとき君原には抜かれると思っていたが、歓声からはそんな声もなく変だと思ったという。

円谷は東京オリンピック後インタビューに答えて早くもメキシコオリンピックでの金獲得を明言。その後は容赦ない悲運に見舞われた。自衛隊体育学校の円谷の良き理解者だった校長とコーチの異動があった。当時、進められていた婚約を「次のオリンピックの方が大事」と破談に追い込まれた。帰省した折、その元婚約者が結婚した事実を知る。練習のオーバーワークで腰痛悪化。42年に椎間板ヘルニア手術。その後の回復が思わしくなく、重なる不運に孤立無援、八方塞がりとなる。

須賀川市の生家に接する小さな平屋が家族の手による「円谷幸吉記念館」として建てられ

ていた。この記念館の前に「忍耐」の2文字が刻まれた碑があった。円谷幸吉が好んで色紙に書いた言葉だったという。「忍耐が座右の銘ならもう少し我慢して…」とは長兄の俊雄の無念の言葉だったという。

この記念館には両親が晩年まで寝泊まりしていた。幸吉は死んだ以後も両親に見守られていたのだった。

平成18年遺族の高齢化により展示品を市に寄贈して、秋には閉館された。その後は須賀川市の管理で、「円谷幸吉メモリアルホール」として公開されているという。

記念館には「人間に与えられた最大の力は努力です 君原健二」と読める色紙が飾ってあった。

須賀川市では毎年「円谷幸吉メモリアルマラソン」が開かれている。

この件以後アスリートに対するメンタルサポート、メンタルヘルスが実行されるようになった。

編集委員会からのお知らせ

会報 50号記念原稿募集！

会報は8月に50号となります。「何事にも節目を大切にする」「わ」の会、されば会報もということで、「50号記念号」を発行することになりました。ついては会員各位から原稿を募

ることになりました。

下記要領で原稿を募集します。奮って、ご応募下さい。

記

1. 字数：1000字以内
2. テーマ：自由
3. 締切：6月30日
4. 応募方法：メール：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com
郵送：〒236-0016 横浜市金沢区谷津町 65-1-736 大門
手渡し：お知り合いの運営委員、会報編集委員へ

行事予定

2014年3月～5月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	3月	4月	5月
学習会	なし	なし	5月10日(土) 能見台CC 9:30～12:00 総会・学習会 野口英世と横浜金沢、そして私 高橋 好一 氏
寺社を巡る会	3月6日(木) 集合：金沢文庫駅 10:00 テーマ：谷津・釜利谷Ⅱ 訪問先：谷津浅間神社、太寧寺、関ヶ谷不動尊、能見堂跡、正法院、手子神社	4月3日(木) 集合：稲村ヶ崎駅 10:00 テーマ：極楽寺方面 訪問先：十一人塚、稲村ヶ崎古戦場、極楽寺、成就院、御霊神社、大仏切通、常盤亭跡	5月9日(金) 集合：金沢文庫駅 10:00 テーマ：金澤Ⅱ 訪問先：寺前八幡神社、町屋神社、伝心寺、天然寺、安立寺、龍華寺、洲崎神社
古文書を読む会	9:00～ 基礎講座 継母の継子いじめの話		
	3月13日(木) 10:00～ 金沢公会堂 宿村 布川家文書 3月27日(木) 9:45～ 金沢CC 絵嶋生島事件	4月10日(木) 10:00～ 金沢公会堂 宿村 布川家文書 4月24日(木) 10:00～ 金沢公会堂 絵嶋生島事件	5月8日(木) 10:00～ 金沢公会堂 宿村 布川家文書 5月22日(木) 10:00～ 金沢公会堂 絵嶋生島事件
ふれあいの道歩こう会	3月20日(木) (雨天21日) 97回=独自コース No.13 「早春の鎌倉祇園山・衣張山」 神奈川県鎌倉市	4月10日(木) (雨天11日) 98回=独自コース No.14 「城下町小幡を歩く」 群馬県上州福島	5月15日(木) (雨天16日) 99回=独自コース No.15 「新緑の奥多摩・高水三山縦走」 東京都奥多摩
懐かしの映画を観る会	3月10日(月) 12:10 金沢CC ナパロンの要塞(米) 3月24日(月) 12:10 金沢CC 人間の条件 3,4部(日)	未定	未定
浮雲俳句会	3月30日(日) 9:30～ 金沢CC 第78回例会 テーマ：春の海・牛	4月27日(日) 9:30～ 金沢CC 第79回例会 テーマ：東京湾・蜂	5月18日(日) 9:30～ 金沢CC 第80回例会 テーマ：瀬戸内海・蛇
パソコンを使いこなす会	3月4日(火) 金沢CC EXCEL 実用講座 －地図の作成Ⅰ－ 3月18日(火) 金沢CC EXCEL 実用講座 －地図の作成Ⅱ－	4月1日(火) 金沢CC WORD 復習講座 －図形の練習－ 4月15日(火) 金沢CC WORD 実用講座 －写真入り転居はがき－	5月6日(火) 金沢CC EXCEL 復習講座 －複数シートでの計算－ 5月20日(火) 金沢CC EXCEL 実用講座 －アンケート調査票－
	9:30～12:00	9:30～12:00	9:30～12:00

連絡先： 学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 782-8147 (小俣) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成26(2014)年2月8日	
<p>小子はこの季節になると唱歌「早春賦」をよく思い起こします。「春は名のみ風の寒さや」、挨拶文でも『余寒の候』あるいは『春寒の候』などで始まります。今月お届けする会報には「わ」の会、あるいは分科会のいろんな活動の様子・予定が報告され、諸氏が多くの分野で活躍されている様子が手に取るように分るのではないのでしょうか。『二月は朝夕の寒さことに厳しい折、くれぐれもご自愛ください』。そしてまたそのご活躍をふるって寄稿していただく事をお願いします。(TY)</p>	発行月	4回(2, 5, 8, 11月)	
	発行者	金沢区生涯学習「わ」の会	
	編集長	大門 利晴	
	編集委員	貝田 誠作	田中 徳明
		伊達 一雄	吉田 寿紀
相川 勲		金間 誠一	
金久保常二		高橋 康雄	
柴崎幸治			